

サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤り (11)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆われていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。それらの主張は、お父様がお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、彼らの言説の誤りを総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト (http://trueparents.jp/)」の掲載文や映像をこらなくください。

注本文中、真の父母様のみ言や『原理講論』等は「青色」で、サンクチュアリ教会側の主張は「茶色」で色分けしています。

(教会成長研究院)

【21】第二弾―真のお母様も「メシヤ」である

文亨進様は、「お母様はメシヤではない」と批判しておられますが、この問題については当連載の第3回で、すでにその誤りを指摘しました。ところが、いまだにサンクチュアリ教会を支持する人々の中に、それを理解できない人がいます。今一度、第3回を熟読し、その内容を理解すべきでしょう。

『原理講論』に、「メシヤは人

類の真の父母として来られな

ければならない」(二七七ページ)

とあり、真のお父様は「メシヤ

は真の父母です」(八大教材・

教本『天聖經』一九二ページ)

と語っておられます。キリスト

教は、イエス様だけをメシヤだ

と考えてきましたが、統一原理

においては、メシヤは「真の父」

と「真の母」の両者を指して語

る言葉です。そこが、従来のキ

リスト教と異なっている点です。

メシヤは個人メシヤとして、

まず男性として来られますが、

もない主張です。

真のお父様は、真のお母様が

「還暦」を迎えられた二〇〇三

年陽曆二月六日、二度目の聖婚

式と家庭王即位式をされました

が、それらの式典について次の

ように語っておられます。

「神様とアダムとエバは、『家

庭王即位式』をすることができ

ませんでした。……その『家庭

王即位式』をしたので、神様が、

本来の真の父母を中心として、

婚姻申告をすることができるとき

を迎えたということですよ。……

文総裁を中心として、(神様は)

婚姻申告をしました。今、霊界

に行けば……。今まで霊界では、

神様が見えませんでした。今、

行って見れば、霊界の父母の立

場で、文総裁夫婦の顔が現れて、

きらびやかな光で見えるので、

顔を見詰めることができな

いほど、まぶしくなるとい

うのです」(『ファミリー』二〇〇三年五月

号、二七ページ)

そのメシヤがメシヤとしての使命を果たし、家庭メシヤ以上になろうとすれば、そこに必ず「本然のエバ」がいなければなりません。

イエス様は、地上で生きておられるときに「真の母」を立てられなかったため、その救いは「霊的救い」という個人救済次元で終わってしまいました。真のお父様は、イエス様が立てることのできなかつた「真の母」を立てられ、血統転換の道を切り開かれました。ゆえに、真の父母様を通じた祝福結婚により、真のオリーブの木に接ぎ木される道が生じたのです(『平和神経』三四ページ)。

『原理講論』に、「原罪は、人間が、その真の父母として来られるメシヤによって重生されるのでなければ、取り除くことはできない」(二七一ページ)、「父は一人であらうして子女を生むことが出来るだろうか。墮落した子女を、善の子女として、新た

に生み直してくださるためには、真の父と共に、真の母がいなければならぬ」(二六四〜二六五ページ)とあります。メシヤがメシヤの使命を果たすには、そこに「真の母」がいなければなりません。それゆえ「真の母」もメシヤなのです。真のお父様は、次のように語っておられます。

「世の中に一つの真のオリーブの木の標本を送ろうというのが、メシヤ思想です。しかし、真のオリーブの木であるメシヤが一人で来てはいけません。……メシヤが一人で来ては、真のオリーブの木になれないのです。メシヤとしての真のオリーブの木と、メシヤの相対となる真のオリーブの木を中心として、これが一つになってこそ、真のオリーブの木として役割を果たすのです」(『永遠に唯一なる真の父母』六八〜六九ページ)

真のお父様は、「メシヤが一人で来てはいけません」と語っ

真のお父様は、平和メッセー

ジで次のように語っておられます。

「アダムとエバが……完成し

た上で、結婚して子女を生んで

家庭を築いたならば、アダムと

エバは外的であり横的な実体の

真の父母になり、神様は内的で

あり縦的な実体の真の父母にな

ったことですよ。……神様

は、真の愛を中心としてアダム

とエバに臨在されることにより、

人類の真の父母、実体の父母と

しておられ、アダムとエバが地

上の生涯を終えて霊界に行けば、

そこでもアダムとエバの形状で、

彼らの体を使って、真の父母の姿

で顕現されるようになるのです」

(『平和神経』五四〜五五ページ)

「アダムとエバが神様のみ旨

のとおり個人完成、すなわち

人格完成を成し、神様の祝福の

中で夫婦関係を結び、神様と完

全一体を成していたならば、神

様が彼らの中に臨在し得る因縁

が決定していたことですよ。……完成したアダムとエバの結

このように、完成したアダムとエバが霊界に行けば、神様はアダムとエバ(真の父母)の姿をもって顕現すると語っておられます。二度目の聖婚式以降、真のお父様は、神様について「今、(霊界に)行って見れば、……文総裁夫婦の顔が現れて、きらびやかな光で見える」と語っておられます。すなわち神様は、お父様のお姿を通してだけなく、今や、真のお母様のお姿をもつて現れるということです。これが、二度目の聖婚式以降、お父様が語っておられる、お母様の立場です。

このみ言で分かるように、真のお父様と真のお母様は、それぞれ完成したアダム、完成したエバであるということです。

『原理講論』には、「愛の力は原理の力よりも強いので、アダムとエバが完成し、神を中心と



して夫婦となることにより、その絶対的な愛の力によって、神の直接的な主管を受けるようになれば、いかなるものも、またいかなる力もこの絶対的な夫婦の愛を断ちることができないから、彼らは決して墮落するはずはなかった」(一一四ページ)とあります。

完成したアダムと、完成したエバは、「決して墮落するはずはない」という『原理講論』で論じられている原理と照らし合わせると、真のお父様と真のお母様のおふたりは、もはや墮落することはありえないのです。したがって、「お母様は、既に墮落した」と語るサンクチュアリ教会側の主張は、原理と食い違う、非原理的主張であると言わざるをえません。

また、真のお父様は、「お母様は聖霊です。聖霊に背いては、赦しを受けられないのです」(天一国経典『真の父母經』四七ページ)と語っておられます。

キリスト教では、「聖霊」を神と考えてきました。真のお父様は、真のお母様を「聖霊です」と語っておられ、二〇〇三年の二度目の聖婚式以降、前述したように、お母様も、神の立場に立っておられることを明言しておられます。

事実、二度目の聖婚式後、真のお父様は、名節のとき、真のお母様はお父様に敬拝をささげなくてもよいとされ、さらに二〇〇六年六月十三日の「天地人真の父母様天正宮入宮・戴冠式」以降は、お母様は神様に敬拝をささげなくてもよくなりました。このように、お父様は、お母様の「位相」を高められ、敬拝の仕方まで変更されました。

そして、『原理講論』も、聖霊が「神」であることを次のように論じています。
「聖霊は女性神であられるので、聖霊を受けなくては、イエスの前に新婦として立つことができない」(二六五ページ)

「イエスが後のアダムとして来られ、後のエバの神性である聖霊を送られることによって、贖罪の摂理をされる」(三六三ページ)

「人類の父性の神であられるイエスが来られて、人類の母性の神であられる聖霊を復帰し、めんどりがそのひなを翼の下に集めるように、全人類を、再びその懐に抱くことによって重生せしめ、完全復帰する」(同)
「モーセの路程で、イスラエル民族を導いた昼(陽)の雲の柱は、将来イスラエル民族を、世界的カナン復帰路程に導かれるイエスを表示したのであり、夜(陰)の火の柱は、女性神として彼らを導くはずである聖霊を象徴した」(三六九ページ)

このように『原理講論』は、聖霊を「女性神」「母性の神」等々と論じています。真のお父様が「お母様は聖霊です」と語っておられるように、私たち

は真の母も、神の立場に立っておられることを明確に理解しなければなりません。

②ウイルソン教授による重要な指摘

二〇一六年二月、韓国で行われた「天一国指導者会議」で、アンドリュウ・ウイルソン UTS (統一神学大学院) 教授は二〇〇六年六月十三日の「天地人真の父母様天正宮入宮・戴冠式」のお写真【左ページの写真参照】を提示し、サンクチュアリ教会側の誤りについて重要な指摘をしました。ウイルソン教授は、次のように述べています。
「この写真の中に、天一国の意味がとても生き生きと現れています。これは二〇〇六年六月十三日に挙行された『天地人真の父母様天正宮入宮・戴冠式』のときに撮影した写真です。」

真のお父様と真のお母様のための二つの王座があり、『父なる神様』と『母なる神様』のた

めの、また他の二つの王座があります。そして、お父様とお母様の頭の上に、二つの王冠があり、『父なる神様』と『母なる神様』のための、またほかの二つの王冠があります。

この二つのお姿は、『父なる神様』と『母なる神様』としていらっしやる縦的な天の父母様(神様)と、『真のお父様』と『真のお母様』としていらっしやる横的な真の父母様の間で、完全に一致しているのです。一枚

の写真の中に見えるこれら全てものは、正に天一国の基盤です。しかし、サンクチュアリ教会においては、王座の一つを片付けてしまいました」

このお写真で明確なように、ウイルソン教授は、神様と真の父母様とは完全一致しており、真のお父様だけでなく、真のお母様も、神の立場に立っておられる事実を指摘しています。

【23】二〇一二年八月三日の最後の訓読会で、お父様は「すべてを壊したオンマ(お母様)と金孝律は責任を取りなさい」と語られた」という批判への応答

サンクチュアリ教会側の人は、二〇一二年八月三日の最後の訓読会で、「真のお父様は『すべてを壊したオンマ(お母様)と金孝律は責任を取りなさい』と語られた」と批判しています。しかし、彼らがアップしている八月三日の訓読会の映像には、

それに該当する部分がありません。本当にそのようなみを語られたのでしょうか？

しかし、もし、そのようなみを語られたと仮定しても、聖和される二十一日前の陽暦八月十三日、真のお父様が最後の祈りで「すべて成し遂げました」と祈られたことが決定的な出来事であると言えます。

もし、最後の祈りの時点で、「お母様は、お父様と一体化しておられない」、あるいは「すべてを壊したオンマ」というのであれば、真のお父様は「すべて成し遂げました」とは祈られなかったでしょう。全てを勝利され、真の父母様は、完全一体になっておられるがゆえに、「すべて成し遂げました」と祈っておられるのです。

ところで、サンクチュアリ教会側のブログでは、この最後の祈りについて、英語版の天一国経典『天聖經』を引用し、「have accomplished everything

for us」と書かれているので、「何故、お父様は『私は(I)』と言われたのか？ここは『私たち』または『真の父母』はという言葉が、お母様への感謝の気持ちと共に来るのではないか？それを、敢えて、何故『私は』だけなのか？これは、お父様の聖和直前まで、お母様はお父様と一体化出来なかったことの証左でもある」(「サンクチュアリNEWS」二〇一六年四月二十四日)などと、かつてな解釈をしています。しかし、真のお父様の最後の祈りは、韓国語で「私は」という主語はありませもともとなかった「I」という主語を翻訳のために挿入せざるをえなかったものと思われま。このように、翻訳した文章の一部分だけを取ってきて批判に利用することは、恣意的な引用であると言わざるをえません。私たちは、このような批判に惑わされてはなりません。